

家庭科の男女共修をすすめる会

会報

'92 秋

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11
婦人会館内 〒151

振替 東京九一―九一八九一

発行 一九九二年一〇月一七日

今、確実な共修実現のために

世話人会

新教育課程の実施へ向けて、各学校での計画は固まりつつあります。男子校の中でも、

家庭科の履修についてはっきり決めるところも出て来ました。文部省も家庭科教員加配の方針を出しています。

早稲田大学本庄高等学院や京都の洛西高校も家庭科履修を決めました。このような影響力のある私立男子校で履修が決まったのは喜ばしいことです。

しかし一方で、「実際には家庭科はやらすにはかのかをやっておいて、名目だけやったことにしよう」という動きもあるようです。家庭科が全く入らない新しいカリキュラムを堂々と発表している学校もあります。首都圏の世話人は、川崎市立総合科学高校の新しいカリキュラムに家庭科が入っていないことを

知って、働きかけを始めています。

各地域で運動を

共修の確実な実現のために、今、ひとつひとつの学校に働きかけることが必要です。皆さんも、各学校でどんな計画がすすんでいるかチェックして働きかけてくださいますように。

家庭科教員を募集します

新しく家庭科を実施するために家庭科教員を募集する学校、会に推せんを依頼してくる学校もあります。ご希望の方、適任者をご存じの方は、どうぞ世話人に詳しくおしらせください。

◆和田典子世話人

〒151 東京都渋谷区西原二―四―一〇

☎〇三・三四六六・二六六五

もくじ

今、確実な共修実現のために……………(1)
母親大会報告……………(2)
夏の各集会から……………(3)

西歴二千年に向けての全国会議
家教連 We 日本婦人問題懇話会
福井県学習会 山梨県研修会
教科研

私学のとりくみ(全私研)……………(6)
家庭科教育学会から……………(7)
世話人会報告……………(9)
国際婦人年連絡会の動き……………(11)
市川先生、共修も間近です……………(12)
新しい中学校教科書について……………(13)
新教育課程に対する中学校の実態
(姫路)……………(14)
通信教育で家庭科教師を志す男性の
発言から……………(15)
東京都では……………(16)
東京私立中学高等学校協会会長を
訪ねて……………(17)
家庭科教員はふえるか?!……………(18)
「家庭科教員をめざす男の会」結成……………(18)

第27回家教連 全国集会のようす

家教連夏季研究集会は7月28日から3日間、愛知県大山市で約四〇〇人の参加で盛会でした。

テーマは「男女がともに学ぶ家庭科」で、一九九四年度からの高校での共学実施をひかえて高校からの参加が一五七人と半数に近く、その中には京都の有名な私学の進学校の男子校から男性の参加がありました。同校では調理室の建築を完了し、家庭科教師の採用も決定、校内の家庭科設置準備委員会の代表として国語の先生が、どういう家庭科の内容にするかを学びに、この集会に参加したとのことでした。又、山形県の中学の男性教師は大学で家庭科を専攻した家庭科の専任でした。

例年の基礎講座、分科会の他に、今年是小・中・高・障害児別に六講座の模擬授業を開きました。閉会集会での愛知私教連からの報告「四者に支えられた愛知の高校生運動」は高校生のもつすばらしい能力はどうすれば全面的に引き出せるかを示した大変感動的な内容の報告でした。

(安田 雅子)

'92年We夏季フォーラム

関西地区大学セミナーハウスで行われた「'92 We夏季フォーラム」では、家庭科の男女共修実施を真近にひかえて、各地での具体的な取り組みの交換が出来ました。

概して、施設・設備についてはすめられているようですが、家庭科教員の計画的増員については今のところ困難な様子です。93年度以降の週五日制の具体化が明示されていないことや生徒数の減少による学級減の見通しがたてにくい点、地域によっては進学校の予備校化など、各地の種々の実情が影響をおよぼしている様です。国の定数法の改善が是非とも必要であることを強く感じました。

また、現在高校で他教科の教員をしながら通信教育で家庭科の免許を取った、現在その最中である、今年から中学校の家庭科教員になったという三人の男性参加者から「家庭科の教員をめざす男の会」が出来たこと、家庭科がおもしろいと通信教育の男性受講者が年々増加していること等の報告があり、「家庭科共修は是非共教で」に大拍手でした。

(芦谷 薫)

「家族的責任条約」

批准へむけて

——日本婦人問題懇話会
シンポジウム——

六月二六日ILO「家族的責任条約」批准にむけてのシンポジウムが都労政会館で開かれた。

ILO東京支局次長の藤井氏からはこの条約の背景が語られ「日本は家庭と仕事を両立させる条件が少ない」との指摘があった。連合女性局長の松本氏は介護休暇や病氣休暇の新設だけではなく、一日の労働時間の短縮や男性の働き方を女性に合わせていく必要があること、一九九四年の国際家族年にむけて運動をすすめていきたい等が、弁護士の中島通子さんからこの条約の意義が語られた。

私はこの条約をどのように広めていくかという観点から、各企業に対するチェックが必要ではないか、地方自治体が契約する企業等には厳しく要求した方がよいこと、学校の中では家庭科の授業や男女平等教育を通じて取組んでいくことが必要と述べた。

(中嶋 里美)

二つの集會に招かれて

七月には福井県高校組の家庭科学習会に、八月には山梨県のいわゆる、官制の研修会に和田が講師として出席しました。

福井県高教組家庭科学習会

7月4日午後1時～4時、県教育センターで婦人部主催の学習会がもたれました。たった一名の女性執行委員が努力した結果初めてみのった企画とかで、出席者が少いのでは？と危ぶまれていたようですが、四〇校中十七校が集まり、担当の菅井婦人部長もホッとした様子でした。

会のパンフ「どんな共修」「こうして開いた」「スタート」などを持参しましたが忽ち切り切れて、追加注文が出るほどでした。「差別撤廃条約」をよみ合わせながら「共修」の意義を確認し合ったあと、各校の情報交換をいたしました。そこで共通に出された問題は「家庭」四単位必修では他教科を圧迫

山梨県 家庭科研修会

今夏8月3日をはさんで、山梨県、石和市の県教育センターで開かれました。

まる2日にわたる充実したスケジュールで、小・中・高の現場から百数十名が参加しての熱心な勉強ぶりに驚かされました。この会に先んじて家教連の集會があったので、そこの討議資料をそのまま使用しましたが、主義主張はともかく、家庭科教師のなやみは共通していることを改めて感じさせられました。

午前中は、なぜ共修、どんな共修、をテーマに基本的な家庭科論のべたあと、小・中・高一貫の男女共修家庭科の内容試案について解説しました。午後は、参加者の実践報告で、小・中・高からそれぞれ「性教育」の研究・実践をきき、意見交換をしましたが、仲間づくりをひろげる余地が多いことを痛感しました。

(和田 典子)

教育科学研究大会 「労働・技術と教育」 分科会のようす

8月10日～12日、群馬県・水上温泉で第31回教育科学研究会全国大会が開催されました。19分科会中、「労働・技術と教育」分科会の討議の柱の一つである家庭科教育・技術教育の男女共学をどうすすめるかの部分について報告します。

男女共学必修家庭一般の食領域実践レポートより——「好きなものを好きなだけつくって食べる」調理実習から入り、生徒が自分達の食生活の現状に気がつき、自分自身の問題としてとらえ、どうすればよいかが分る授業展開と学習を終えての生徒の感想を報告しました。報告に対し①衣・住・保育等の領域ではどんな教材でどのようにして現状に気づかせているのか。②洋風・和風のミックス食文化は良いと思うがどうか。③一汁三菜の献立は栄養素のバランスがよいのか。④今、食べている食糧がどうつくられているのかの学習は、⑤男女共学の食物学習として何を学びとってほしいのかなど質問・意見が活発に出ました。(東京都立豊島高等学校(定) 佐藤美代子)

私学のとりくみ

第23回全私研

(全国私学夏季研究集会)

七月下旬那須塩原で開催され3日間熱心な討論が行なわれました。3回目を迎えた家庭科教育分科会は、レポート5本。参加者は年々ふえて26名でした。(94年度からの共学家庭科へ向けて男子校の他教科の先生や、生徒減対策のカリキュラム見直しで、家庭科の単位が減らされそうだという学校の先生などの参加、初めて父母の参加もありました。)

男女共学実現をめざしての話し合いでは、全国の私学にアンケート調査した結果の報告がありました。

(桧原 順子)

全国私学アンケート調査より

— 畑沢せい子さんの
まとめから抜粋 —

◎回答数

共学校 30 男子校 11 (女子校 17)

◎回答があった県

栃木 岡山 長野 京都 青森 福島 宮城 千葉 東京 埼玉 石川 愛知 兵庫 愛媛

◎共学必修家庭科を実施している学校 11

◎一九九四年度に向けて

○教育課程について、校内に検討委員会がある学校 41校中 36

○家庭科の科目について、決定またはほぼ決定した学校 41校中 15 15校中「家庭一般」 9 「生活一般」 2 「生活科」 1

○「人間生活科」 1

○「家庭一般」にした理由

●衣、食、住、保育など家庭生活全般にわたって学習できるから。

●基本的な内容が多く男子も学びやすい。

●共修にする本来の理由(ともに社会生活、家庭生活を支えあい営みあっている力をつける)からこれがよいと思う。

○「生活一般」にした理由

●2単位で当面よりから。

●現在ある施設を利用できるので、3年で2単位履修に決定。

●施設等の関係で代替のできる「生活一般」にした。

○施設、設備計画について

●調理室、被服室をつくる 11

●調理室増設 5 ●調理室改修 1
●被服室新設 2 ●調理室新設 2
(ほとんどの共学校は、現状の施設を回答)

◎教員確保の計画

●増員計画のある学校 6

(これから話をつめていく、検討中という回答が多かった)

○94年度実施に向けての要望や困っている点

●大巾な学校制度・教育制度の見直し(学校5日制又は2期制など)を検討しているため、「家庭一般」共学4単位必修の実現は無理だと思う。

●学校全体の理解がまだまだである。

●共修の方向で検討中ですが、どのような家庭科の内容をつくっていくか迷っています。

●94以降は、工業、商業などの教師でうめる。

●教員の不足。社会科の一部にするという意見もある。

●専任教員1名で応援を学内でする。

●男が8割強なので共修には消極的である。

●男女共修による施設、設備等の不足。

●教材研究が大変です。

●共学必修家庭科は学内で定着しているが、「家庭一般」4単位にしてほしい(現在3単位)。

家庭科教育学会から

家庭科教育セミナー'92に 参加して(3月)

斎藤 弘子

家庭科教育学会主催の家庭科教育セミナーは今年で第3回目ですが、「男女がともに学ぶ家庭科」——小、中、高校の一貫性の視点からみた諸問題とその対応——というテーマにひかれ、私は始めて参加しました。

セミナーは3月26日と27日の1日半もたれ参加者は130名くらいと思います。

1. セミナーの概要

第一日目は小、中、高の現場からの報告で、新教育課程推進のための諸問題をテーマに、小学校からは「児童の活動と家庭科教育」(山形)が、中学校は「実践的態度の育成をめざす学習指導」(熊本)、高校は「男子に保育実習を試みて」(徳島)が問題提起されました。

講演は文部省初等中等教育局の桜井氏が「新教育課程推進のための具体策」をテーマに行いました。

二日目は新教育課程の諸問題と対応をテーマに五人の方の講演がありました。

①「家庭科における家族、保育指導上の諸問題と対応」鳴門教育大学 太田昌子氏

②「家庭経営領域の基盤としての個人の生活経営の意義」秋田大学 澤井セイ子氏

③「小、中、高校の一貫性の視点から——被服領域における諸問題と対応——」静岡大学 大村知子氏

④「新教育課程の諸問題とその対応——食物領域——」福島大学 武藤八恵子氏

⑤「小、中、高校一貫の住居学習の提案」奈良教育大学 田中恒子氏

2. 感想を中心に

これら、たくさん問題提起や講演の中で特に文部省の桜井氏の講演から感じたことを中心に報告したいと思います。

(1) 基礎・基本は一人一人違うのか?

新学習指導要領に強調されている「社会の変化に主体的に対応できる能力の育成」「個性尊重」とのかかわりで一斉授業に対する批判的検討が提起されていました。その主張

は個に応じて(能力に応じて)といっているように私は感じた)一人一人教材が違っているじゃないかといった教材観のようです。従来の一斉授業は子どもたちに消化不良を起こしていたというのです。そして、その一方で「基礎・基本重視」も言われ、矛盾すると思いきや、基礎・基本もすべて同一に設定するのは無理だから一人一人違ってもよいということでした。

新学習指導要領にある「個性尊重」が「出来るのも個性」「出来ないのも個性」と、能力や学力を固定的にとらえているように思えてなりません。学習内容や具体的な教材の工夫を通して、様々な学力を持つ子どもが最終的に到達するのが基礎・基本で、それはどの子ども・青年にもつけない学力であり、能力や学力の違いによって一人一人に違いを認め、そしてより消化不良を子どもが起しているとしたら、それは教師の目が充分に行き届くような教育条件になっていないことに多くの原因があります。

(2) 自ら学ぶ意欲の育成

(1)とも深く関わっているが、教師が意図した知識や技術を教えるのでは対応できない、子ども自身がどのように学んでいくかを中心

にして興味、関心、意欲を重視せよ、そのためには従来の学力観を変える必要があるといえます。私も学習の導入は子どもたちの学意欲や関心を重視して設定していますが、それは(1)でも書いたように設定した学習の目標に子どもたちの学力を引き上げるための入口の所です、子どもたちにその学習領域に興味・関心を持ってもらうことが重要だからです。ところがここであれは重要なことは、教科にある人類の英知である科学や技能の系統を教授することより、子どもたちの興味や関心のあるものを教材として設定せよといった学習内容を内容の低いものに落としているように思えてなりません。

3. 全体を通して感じたこと

新教育課程ではようやく小、中、高で男女がともに学ぶ家庭科が実現することになりました。日本の教育史上、始めての試みです。これが子どもや父母に共感を持たれるものにしていくことは10年後の次期教育課程で家庭科がどうなるかにかかっています。そのためには家庭科とはどのような教科で、男女がともに学ぶ家庭科とはどのような学習内容なのか、子ども・青年の心身の発達に役に立つにはどのような学習過程が必要なのかが家庭科教育学会始め、家庭科関係者の重要な研究

事項だと思っています。私はセミナーの内容としてそれを期待したのですが、領域別の問題提起で小、中、高の一貫したカリキュラム案は一つしか出ていなかったのが大変残念でした。

日本家庭科教育学会 第35回大会(鹿児島) 研究発表の紹介

鶴田 敦子

日本家庭科教育学会第35回大会は、去る7月4日(土)・5日(日)の2日間、鹿児島県の商工会議所ビルで開かれました。ここ数年、研究発表数が徐々に増える傾向にあり、今回は63報告延べ約140人による発表でした。大学関係者が多いのですが、約20名の小・中・高等学校の先生も研究に参加されています。

多かった中学校男女必修

「家庭生活」領域に関する研究

中学校の家庭生活領域に関するものが昨年は2報だけでしたが、今回は11報でした。ご承知の通り男女共通に学ぶ新設「家庭生活」領域の来年度実施を前にして、教育現場では様々な戸惑いと疑問が出されてきていますので、これに対応する研究が多くなったのもうなづけます。九州地区共同研究会の、「九州地区

における「家庭生活」領域に関する研究(第1報・第3報)は、この領域に関する教員の意識と取り組みの実態、授業実践の動向、教材・教具の傾向について緻密な分析を行い全国でも参考になる内容と思われました。この他に、この領域での教材開発や内容、指導方法や評価のあり方など多面的な内容でした。今後の研究成果の蓄積がのぞまれます。

男女共学履修、性差に関して

ここ数年多くの研究は男女共学を前提にして進められているようですが、これに的を絞ったテーマは昨年と同様6報でこの分野が定着しつつあるように思えます。そのテーマ名は以下の通りです。

「男女共学移行に関する現場支援の研究」学級担任教師による生徒発達の調査から(岡山・山田・榎田・真澄) 「男子学生の育児参加意識と女子学生からの期待」(広島・中間美佐子) 「家庭科男女共学の背景」香川高松市民における家庭科履修に関する意識(香川・山下智恵子) 「高校家庭科男女必修に関する研究Ⅲ」高校生の家庭生活に関する判断力(大阪府立岬高等学校・亀崎多佳子他)

また「公立高校における別学校成立と家庭科の関連」(福島・武藤八恵子)は、危惧される男子校における家庭科教育の実施という

世話人会報告

△5月16日▽

報告

▼4/17都副知事金平輝子氏と国際婦人年連絡会との意見交換会に参加して……半田

▼4/28乾国会議員、文部省助成局を訪問し、私学の助成に対して要望……梶谷

▼国際婦人年連絡会関係の最近の動き……和田「さしあたって「会」としては、各県の家庭科教師の必要数を試算して、その一覧を文部省に持っていくことが必要。生徒数、学級数、男女のバランスなどのデータがほしい。また、94年が国際家庭年なので、そのこととのからみで家庭科のことを要求してはどうか」▼PKO法案にかかわって色々な機関から共闘の誘いがあるが「会」としては加入しないことを確認。

協議

▼4/4の集りを生かして校長会に面会を申し込む。

▼乾議員は定数法改善計画に家庭科のことを必ず言うと言明しているの、今後もコンタクトをとる。

▼母親大会、各種夏の大会でのアピールや販売について。(半田たつ子)

△6月13日▽

報告

●東京都議会の答弁では、共修のために一〇〇名の家庭科教師(高校)の採用をみこんでいることが明らかになった。

●都高教組も六月中旬に「定数改善計画」への家庭科加配の件を文部省に要請した。

●人員計画がはっきりしないので、教育課程表での単位削減がチェックできない。各校の減単策に対する都教委の対応をたしかめる必要がある。

●三井都議を介し、都高家庭科部会として六月中旬にヒアリングを申し入れている。

協議

① 情報を各地の世話人に伝え、地域でのとりくみを強めてもらう。また夏季台宿に参加して、状況を訴えるようつとめる。

② 私立中学・高校長協会と面会する。

③ 会報夏号をアンケートの回答校に送る。

- ④ 母親大会への参加と任務分担など。
⑤ 会報秋号の内容承認。

(和田 典子)

△7月18日▽

94年度の高校家庭科共学実施にむけて新カリキュラム決定のタイムリミットがせままっている中で、各地の取り組みの報告があった。各地の世話人の方々が情報を多く寄せてくれることはうれしい。主なものをあげると、

- ★神奈川県高等学校教育課程編成の指針
 - ★長野県一九九二年家庭科基礎調査のまとめ。全県の高校を対象に調査をした。
 - ★姫路。市内の中学校実態調査中。
 - ★東京都。家庭科の指導主事ヒアリング。
 - ★福井県高教組教研集会へ参加。和田さん。長い間この運動を続けてきて制度も変わり人々の考えも変わってきているのに、相変わらず古い考えに立腹するような報告もあった。
 - ★東京私立中学高校協会会長と面会。
 - ★高校教科書の編集・検定についての要請書について。
- などいろいろな報告をうけて議題は、各機関にどう訴えていくか、有効な手段はないが黙っている事はできないのでアピールしていくことの確認をした。

(磯部 幸江)

△8月15日▽

1. 国際婦人年連絡会全体会報告(和田)
- 教科書検定についての要請は、教育、マスメディア委員会と世話人で相談してすすめていく。

2. 家教連夏季集會高校分科会報告(和田)
 - 京都洛西高校(男子校)が共修家庭科設置に積極的、家クラブ全国大会の実態、問題点が統出、共修状況の各県の報告など。
 3. 教員募集依頼について(和田)
 - 相模女子大高校、早稲田大学の本庄高校からあった。会では今後こういう依頼に応じられるようにしていく必要がある。
 4. 川崎市立川崎総合科学高等学校の教育課程の問題について(持田)
 - 理科系大学へ直結と言うこの高校の科学科には「家庭科」は全く入っていない、このことについて関係部署に質問をする。
 5. 家庭科教員をめざす男の会(芦谷)
 - (18ページ参照)
 6. 日本女子大のスクーリングに参加する男子が急増(芦谷)
- 共教にむけて文部省も早く取りくんでもらいたい、など話し合った。

(柴田 栄子)

△9月13日▽

●報告と話し合い

●文部省が家庭科教員増員の方針を出したと(16ページ)について運動の効果があった。予算等についても更に要求して行こう。教員養成についても運動したいがむずかしい。

●学校5日制に関連して11月の指導要領で週5日というのは無理なので、どこを減らそうかということになると家庭科がねられやすい。次の教育課程改定で家庭科が減らされるおそれもある。運動の手はゆるめられないのではない。

●母親大会について

●問題別集會での「新指導要領の白紙撤回」の申し合わせに関連して「家庭科共修も撤回なのか?」「共修は上からの押しつけ」という反発も出てくるのでは? 下からの運動で入ったことなのに……「全面否定」の運動をすべき時代ではない。

●「母親大会」という名前を変えるべきだ、会としての取り組み方を改めて考えたいという意見も出ました。

●決定したこと。

●総理府への働きかけは10月の世話人会後に。

●会報秋号の内容、ページ数、部数を確認。

●年内の世話人会の予定など。(梶谷典子)

国際婦人年連絡会の動き (92・6・7)

和田 典子

一、宮沢首相との面会

六月九日、総理との面会が実現しました。参加者は中村紀、中村、松浦の三世話人と分野別委員会の座長六名および事務局より一名の計十名でした。しかし、持ち時間が短く、既報の六項目を各座長が要望したあと総理からの質問・発言があり、平和憲法を守る立場に立つことを求めて終わりました。(総理府情報誌、えがりて、の八月号表紙にはこのときの写真がのっています)

一、女性の政策決定参加の状況についてのヒアリング

七月十五日午後、総理府婦人問題担当室長堀内光子氏より、三月末現在の審議会等への女性委員の参画状況についてききました。女性委員の割合は九・六%、女性をふくむ審議会は七八・〇%、女性委員が一五%以上の審議会は一五・五%が現状です。しかし、新経済五か年計画のなかでは女性が重点の一

つになっており、女性科学者の地位向上の提言(科学技術大綱)、地球サミットの宣言に女性の項目が加わり、農水省は女性に関するビジョンを作成、ODAへのWIDのもりこみなどの動きが生れています。また、委員推せん団体に民間女性団体を入れることも関係方面と相談したいとの発言もありました。

一、地球サミット、NGO「グローバル・フォーラム21」の報告

右に参加された新日本婦人の会の伊藤弥栄子氏の報告は「一六五カ国、七五〇〇団体、毎日三万人が集った、会場には四〇〇近いシンボや会議、六〇〇余の展示があり、女性活動センター」も設けられた。世界のNGOから日本企業による海外での環境破壊や公害輸出にきびしい批判が集中した」などでした。

一、ユニフェム活動の近況——来日の広報担当官デビー・ツエグレディ女史にきく

開発途上国の女性の現状にふれながら、女性支援のユニフェムの活動例を紹介、現在一二〇カ国約六〇〇のプロジェクトにとりくんでいること、日本では世界で二三番めに国内委員会が発足予定だが大へん喜ばしいなどが話されました。

一、高校教科書の編集・検定についての要請案について

教育・マスメディア委員会では、昨秋より検討をつづけてきた高校教科書のうち、男女平等教育と関係の深い国語、現代社会、倫理、家庭一般の四科目計八社の現行教科書の問題点を洗い出し、それをふまえて現在作成中の改訂版の編集・検定についての要請案をまとめました。要請事項の要約は、左の通りです。

① 教科書の著作、編集、検定担当者が男性に偏しているのを改め、男女のバランスをはかること。(女性の参画はごく少数)

② 固定的性別役割分担意識を助長するような記述、写真、さし絵を排し男女平等、男女とも人間として自立した生き方が学べる内容にすること。(ステレオタイプが多い)

③ 戦前、戦後の女性差別の歴史や現状、原因や社会的背景、克服する方向がわかるような内容をもちこむこと。(ほとんど欠落)

④ 編集・検定は、女性の視点を必ず入れること、また家庭、社会、職場の描写は男女平等の理念にもとづくこと。(欠けている)

⑤ 「女子差別撤廃条約」や女性の現状、施策などの国際比較を加えること。(皆無)

⑥ 編集・検定基準として自由、平等、平和、人権の項目を新設し、明記すること。

市川先生、 共修も間近です

中嶋 里美

市川房枝さんが生きていて下さったら来年で一〇〇歳になる。そして市川さん一〇一歳の年から小中高すべての学校で家庭科は男女共修になる。市川さんが誕生して一世紀、そして共修運動二〇年が経過する。

市川さんのお誕生日にあたる今年の五月十五日から来年の五月十五日迄の一年間、縫田曄子氏を委員長として、市川房枝生誕一〇〇年記念事業が行なわれている。

五月十五日は東京芸術劇場で「市川房枝の夕べ」が開かれた。地下では展示会や本の販売が行なわれ、ホールでは幸田弘子さんが市川さんの生涯を朗読で紹介し、コーラスでは市川さんの好きな歌や「婦運の歌」等が紹介され、松尾葉子さん指揮の交響曲に会場を埋めつくした二〇〇〇名は時のたつのを忘れた。私はこの日『市川房枝の国会全発言集』、『私の国会報告』、『市川房枝の思い出』等を買ったが、大変貴重な資料であり、議員、と

りわけ女性議員には是非読んでもらいたいと思った。

私は一度だけ市川さんから手紙をいただいたことがある。それは『婦人展望』に「女子だけの家庭科は憲法十四条違反だから、裁判闘争を起したい」という趣旨のことを書かせていただいたからである。手紙は「その後あの運動はどうなっているのか」という内容であった。市川さんの手紙ではずみがつき、早速、梶谷さんと一緒に中島通子さんに会いに出かけたりもした。

市川さんのお姿はどの場面を取っても行動的という言葉がピッタリしている。そして養女のミサオさんによれば朝ごはんも新聞を読みながら食べ、前に坐っているミサオさんのおかずに箸がきて、ミサオさんからよく注意をうけたと言った。

最後に市川さんが共修問題を取上げてくれた国会の様子をお伝えしたい。

市川さんが家庭科の共修を国会で取上げてくれたのは三回であるが、いずれも女子差別撤廃条約の署名も批准も行なわれていない時期であり、文部省も女子必修を守りつつ、男子も選択できる程度のことしか考えてなかった時期である。市川さんが家庭科共修を迫る一方、差別撤廃条約の署名や批准に力を注い

新しい中学校教科書 について

磯部 幸江

中学校の技術家庭科の教科書は、東京書籍と開隆堂の二社のみで国定教科書の感が強い。そのどちらを採用するかは、学校独自ですることはほとんどなく、地域の教育委員会などの一括採択で、それに現場の声が反映されない場合が多い。

二社の教科書を新教育課程での教科書ということで興味を持って検討したが、共学が実施される教科書としては従来と変わりなく期待はずれである。開隆堂(上)のみは、配列が技術分野家庭分野と分かれてないのが変わった点である。また開隆堂は、表紙を家庭科の内容のイラストにして生徒の興味を引くようにしてある。学習のはじめの文章の中では「これからの社会は、職業生活と家庭生活、男性と女性の両立をはかる時代になるといわれています。この教科で学習する知識や技術は、男女どちらにも必要になりますので、互いに協力して学びましょう。」と男女で学ぶことの

意義をあげている。根強く残っている性別役割分担の意識を払拭していくためにも、男女で学ぶための教科書を掲げ、編集にも貫いてほしいと思う。挿絵、写真も家事労働をする男性は多くなっている。

新設の「家庭生活」について二社を検討してこれから述べるが、目次の立て方が同じなのは、指導要領にのっとる限りやむを得ないのだろう。

家族と家庭生活について。家庭のとりあげ方が核家族と拡大家族の解説中心である。東京書籍には「家族についての考えが多様化している。結婚しない人や夫婦だけ、ひとりぐらしの高齢者や若い人など家族の構成もさまざまである。」と現代家族の特徴として述べている視点は重要である。生徒たちの家庭の状況は様々で、教科書の幸せな家族の絵に反発を感じる生徒もいるはずである。

家庭の仕事について。ここでは、衣食住に関する仕事の実習例と共にかなりのページをさいてある。主な例は、トースト、ハムエッグ、自分の弁当、通学服の手入れ、居間の掃除、洋服カバー(東京書籍)、チャーハン、米飯みそ汁、ピザトースト、ワイシャツの洗たく、しみ抜き、ウォールポケット(開隆堂)、これでは小学校の学習の再確認、いろいろな

だ理由が、議事録の行間から読み取れる。

第一回の一九七六年の予算委員会では永井文部大臣が「この家庭科というものを常に小学校から高校まで共修というふうな、いわば機械的な取り扱いをするのではなく、もう少し弾力的にして……」と答えている。二回目の一九七七年の決算委員会では海部文部大臣があたりさわりのない答え方をしたので、市川さんは国内行動計画に沿って委員会を作り、男女共修を考えよと迫った。すると諸沢初等中等局長が「改めて別な委員会を作るということは考えていない」と答弁し、市川さんがその答弁には満足しない、文部省が一番がんで良妻賢母主義だと怒りをぶつけ、若い大臣が誕生したのだから別な観点から検討して欲しいと要望している。最後は一九七七年十二月の決算委員会では諸沢氏に対して「家庭は男女の協力で作るものだ。女子だけでなく男子にも教えるべきだとたびたびお願いしたが聞いてもらえなかった」と市川さんは迫っている。諸沢氏に直接抗議に出かけた時私も同行したが、市川さんが机をたたいて諸沢氏に迫った。最も苦しい時期を市川さんは先頭に立って歩いてくれたのだった。

事を広く浅く学び、しかも技能中心である。

家庭の経済の項には、契約とクーリング・オフ、消費者としての自覚など消費者教育も含まれている。また、家庭と地域社会の項には、地域の環境づくりや環境問題にもふれ、これらは新しい内容である。

以上のように「家庭生活」は家庭科という教科の圧縮版という感ですべてのものが盛り込まれている。しかも、1年生で履修とされ問題意識もない状態で学習させるのは非常にむずかしい。この領域の設置の背景には、家庭教育機能が低下している今、親となるための学習を充実する観点から家庭科を見直す動きがあったと言われるし、男女が協力して家庭生活を築いていくという意味も女性が家事育児の中心的な担い手であり男性がその協力者であるという考えがあることも問題である。「女子差別撤廃条約」がめざしている男女平等を実現させるための家庭科の内容と教科書の内容はまだまだ一致しない。現場の教師が教科書を使う時には、その点は十分考慮すると同時に、よりよい教科書づくりへ多くの意見を述べていきたいものである。

皆さんの地域の情報をお待ちしています。

(編集部)

新教育課程に対する 中学校の実態

姫路サークル
香川 敦子

私たちは、中学校技術家庭科の男女共修、平等教育、教育現場の民主化の推進を目標として、月一回の勉強会を、細々と続けている。毎回の報告を送ることによって連絡はとっているが、中学教師の多忙さは、現実的な出席は困難で、数名であることが多い。

今まで、領域を男女同じものに、授業はクラス単位で、という方向を志向して来た。

そして新しい領域「家庭生活」の実際の授業をどうするかなども論じて来た。2時間つづきに技術科と裏あわせに組む習慣に対して、これは別学のものであったし、この組み合わせとある級は家庭科が年の前半のみとなり、評価にも不都合があるので、他教科と同じく1時間で組むことを提唱して来た。平成五年に移行期から新課程に入るので、サークルのメンバーに対してその展望をアンケートに求めた。これをもとにして、兵庫県下をもう少しひろくきいてみたいと思っている。回答は十校ほ

どであるが紹介する。

(I) 必修4領域は、家庭生活・木工を1年で、食物・電気を2年で、それぞれ35時間をあて(指導要領通り)、そしてすべてクラス単位の共修である。しかし、コメントとして、『1年生に「家庭生活」をするのは無理、3年生なら考え方が大きく違うだろう。生活全般にわたることを、35時間で教えるとはどういうことになるのかと空しい。しかし、1年でするつもりなので簡単にし、教材も吟味しなければと思う。』というものがあり、私たちは少くとも、2年の食物と入れかえて、組むことをすすめたい。

(II) 3年で105時間がとれるとして、保育はすべての学校でとっている。移行期に共学をすすめる流れの中で、保育は共学がやりやすいし、必要である(性教育を含めて)という意見が多かった。その延長と思われる。被服も20〜35時間をとっている。住居はとり入れるもの3例であった。技術科は、情報基礎が、機械の導入のおくれている一校をのぞき18〜35時間で組み入れられ、金工または機械との組み合わせである。7領域というわくに對してすべて、4領域をとり、8領域となっている。

(III) 授業は1時間ものとして年間を通じて行う型も、少数派であるがみられた。

(IV) 「家庭生活」の中、(1)家族・生活(2)経済(3)仕事(4)地域・環境という柱に対する時間の配分については、(3)に20時間以上をあてるものが大部分で、その場合、(1)(2)(4)には、1〜8時間の配分をしている。それに対して(3)を7時間、15時間と少くしている例では、(2)に14時間をとっている例があった。いずれも(1)(2)(4)にはほぼ均等に配分している。(2)について悪徳商法、カード、ローンなどをとりあげ、(4)では、ごみ問題、リサイクル、洗剤など環境に目をむけさせたいという意図がみえる。いずれもアンケートの項目として問われていたという自信のなさそうなものである。

これから実際に授業をすすめるなら、カード

とか、ごみ問題を、教師の興味だけでなく、中学一年の彼等の家庭生活全体像の中に位置づけて扱うことをすすめてゆかねばならないと思う。

(V) コンピューターについては、20台が導入され、主として技術科教師が管理する。積極的につかいたいことはないが、購入したソフトを使うよう要請されるので、栄養計算につかってもよいと思うというものがある。市販の家庭科用ソフトについての検討が必要であらう。

この程度の情報でも現場で交換して、お互いの参考にしてほしいと思う。

通信教育で 家庭科教育を志す 男性の発言から

半田たつ子

日本女子大の通信教育で家庭科教師の資格を得ようと勉強している人達のスクーリングを担当しています。ここ三年ほど、男性が二〜三名受講していましたが、今年は一二五名中一五名と大勢でした。その動機を書いてもらっていますので、冬号で紹介しましょう。

東京のある有名私立男子校からは、二名受講しており、うち一人は「同僚は多分二年で単位をとれると思うが、ぼくは三年かかるだろう」などと言いながら、熱心に最前列で受講していました。

その学校では、男子生徒に家庭科を履修させるつもりは全くなかったそうで、職員会議では「家庭科の隣接領域である社会や理科を教えて、家庭科を履修したことにしよう」で合意が成立しかけたそうです。ところが、教務主任(この学校では別の呼称だが)が、発言を聞いていて「教えてもいいのに、学んだことにするのはフェアではない」と思い、

最後にそう述べたことから、家庭科を検討することになったそうです。その人も通信教育を受けていて、「二年で単位がとれるメドがついて」います。

彼は、「学校関係者でない人には不思議かもしれないけれど、学校とは、こんなまやかしがまかり通っている所です」とも語りました。この学校は、進学で名を上げているだけでなく、学校の管理職を選挙で選び、生徒にも自発的な学習を奨励するという特色を持っています。そこで、家庭科の男女共学や家庭科の教育的意義については、この程度の認識なのです。たまたま疑問を提起する人が一人でもいたことで、職員会議の方向は変わりました。どんな結論が出たのか?

バッチリ出来上がっているカリキュラム。英語から1時間、理科から1時間とひねり出すことはできない。苦肉の策は、3学期の水曜6限、特別活動の時間を家庭科にあてる。それで6〜8時間、その他は123学期の生徒自宅学習日に集中講座として22時間、こうして1年1単位、2年1単位、計2単位、あとは体育2単位をもって家庭科にあてるそうです。

「長崎では公立男子校すら、家庭科をしないことを決めた(長崎の公立男子校は工業高校

の定時制だけだ)と思うのですが(半田)。九州の有名な全寮制私立高校では家庭科をやるに決めた、と聞いている。男子の家庭科は10年間でなし崩しにやめてしまうことになりかねない。対策は? 私立学校は補助金をカットされることが一番恐ろしい。息子の学校で家庭科の授業がないのに、評価がついてきたら、これはおかしいと親が騒ぎ、問題を大きくすることも有効だ。

私は、なぜ家庭科が男女共学になったか、生活一般の2単位を、体育など関係のないもので振替えるおかしさを話していますが、彼は「これが私立男子校の実態です」と言い切りました。

事ほどさように、家庭科に縁のないまま大人になった男性に「男が家庭科を学ぶ意義」を理解させ、「いい大学」に多数の生徒を入れることを教師の使命と信じて疑わない人の意識を変えさせるのは至難の技ですね。

だが、広島のある学校ではマンションを借りて、スクーリングに男子教師を送り出して、おり、いよいよ何とかしなければ、という切迫感も漂っていました。あなたの地域ではどうですか? ごまかして通そうとしている動きはありませんか? 手分けして調べ、情報を「会」までお寄せ下さい。待っています。

東京都では

菅谷 薫

前号では都教育委員会が出した「公立学校教育課程編成基準」より関係部分の抜粋をお知らせしました。

要点は、①普通科課程の高校においては、四単位から減ずることはできない（必修教科目の単位の一部削減の対象科目ではない）。②「生活一般」の附則に関しては、文言としては「施設・設備や担当教員の確保等」四単位履修が困難であるというやむを得ない場合と今まで同様の条件の明示の二点でした。

②に関しては、「普通高校では適用する学校はない。工業高校でも施設・設備が整えば適用されない」（都高教男女平等教育プロジェクト「男女共学情報No.1」より）という都教委の見解は、既に会報でお知らせした通りです。

「編成基準」を出した都は説明会を開きましたが、各学校の受けとめ方はかならずしも一致しているとは言えず、「生活一般」の附則の適用は普通高校でも出来るとか、家庭

えている。

(3)家庭科教員の別枠配置については、国の定数法を基に都は計画していくので、今のところは考えていない。

(4)週32時間を標準として人的措置も行われる。(5)秋には各学校での教育課程編成の具体的なタイムスケジュールを示す。平成5年の一学期中が最終リミットと考えている。

ハ「男女共学家庭科情報No.38」(都高教男女平等教育プロジェクト発行)より▽

7月3日都高教は、人事計画課に対して交渉を持った。要点は次の通り。

①東京は他の大都市の中でも最も家庭科教員不足数が大きいと予測される。これに対応できるような定数改善の要請を都として文部省にという要望については、文部省担当者に話してみる。②工業高校に専任教員を94年度より前にという点については、前倒しは男女共修家庭科の設置が前提だが、要請があれば応えたい。③新教育課程にきちんと対応した人員配置をする。

国の教員定数法第五次改善に、家庭科の男女共修の項が入るよう要請することが今緊急になされるべき大きな課題だと思いました。

東京

私立中学高等学校協会 会長を訪ねて

半田たつ子

よかれあしかれ公立学校では、家庭科男女共学に関して、教育委員会の「指導」がありますが、私立学校では「建学の精神」を尊重し、一斉に右へならへ、というわけにはいきません。「会」では、これまでもアンケートや集会等で私立学校に働きかけ、意識を尋ねてきましたが、東京に数多くあって、力も持つ私立学校の全体としての取組みの現状を知りたいと願いました。六月十六日、市ヶ谷の私学会館に、東京女子学院中学高等学校校長で、みだしの協会会長酒井洋氏を、和田・本橋・半田が訪ねました。

酒井氏は、日本私立中学高校連合会副会長でもあります。私立といっても千差万別ですが、「会長」であれば個々の学校の事情を超えて、時代の趨勢はつかんでいるのでは……との期待は残念ながら裏切られました。

「学芸大学で男子の家庭科教員の養成を本

気でやっていない。男子校では、新任の先生では対応できない。40すぎのしつかりした先生がほしいが得難い。指導者の問題が第一なのに、教員養成をはじめとして、対応ができていない。やむを得ず、授業だけきてもらう講師や、内容をバラして単元によって他教科の教師が分けて持つことも考えている。

東京は土地が高く、狭く、建築基準法が厳しく、新しく家庭科教室を作ることなど不可能なのに、文部省は、現場の意見も聞かず、実態に合わないことを性急にやるので困る。無理に運んでも定着するかどうか。10年後の改訂でまた変わるのではないかな。

その上に五日制の問題が出てきた。7・5・3と言われているように、今の子供が学校の教科内容を理解しているのは、小学校で7割、中学校で5割、高校では3割しかない。授業内容を精選するという時期なのに、五日間に今の内容を詰め込み、更に家庭科をふやすことに男子校は音を上げている。

大体家庭科を学校で教えなければならぬいかどうかも問題だ。別に習わなくても、見よう見まねでできるのではないかな。

私立学校は、何も受験にだけが全てと考えているわけではない。また「建学の精神」をタテに、文部省の「指導」に従わないという

ことはない。改訂に際しては真面目に取組み、むしろ「日の丸・君が代」など、文部省の意図を汲み、指導要領に位置づかないうちから率先して実施している。それなのに、文部省が私立学校にはなかなか力が及ばないと言うのは心外だ。家庭科の教室の新設は難しいので、実習など、校外施設における夏休みの合宿などで代替できるのではないかと私学教育研究所で検討させている。

私立学校で男子校が共学になったところもあるが、あれは大学が男女共学だから付属校も共学にしたまでだ。私は共学なら、男2に女1がいい。いや中学・高校は、男女別学がいいと思っている。共学にするためには、施設も大変だし、女子校では、男がすることを女だけでしなくてはならないから、むしろ女子校の生徒のほうが力がつく。

行政機関は、現場のことをよく知った上で施策を打出すべきだ。そのことを今後も訴えていくことが必要と思っている……。」

女子校の校長なのに女性問題の潮流も知らず、全私学の総意を掴んでいるという自信。ああ今、固くて古い教育者によって教育されている生徒達のふしあわせ……。

家庭科教員はふえるか？！

芦谷 薫

八月三十一日、参議院議員乾晴美さん（連合）を、和田、山本、近江、柴田、芦谷が訪問しました。第五次教職員定数改善計画（高校）の基になる全国悉皆調査の結果が夏にまとまるということでしたので（夏号15ページ）、文部省から教育助成局財務課法規係長白間竜一郎さんに来てもらい、乾さんといっしょに話をききました。要点は次のとおりです。

「家庭科教員をめざす男の会」を結成しました。家庭科のような本場にオイシイところを女性だけに味あわせておくなんてモッタイナイ、と思う男が徐々にではあるけれど増えてきたんですね。

7月19日に大阪で開いた初会合には15人の男性と4人の女性が集まりました。集まった男達は皆、理念として男女共教を考えてきたのではありません。各地でそれぞれの生き方を通じて、家庭科の持つ魅力や可能性を発見し、ぜひ自分で実践して行きたいと考えた人達です。すでに教室で教えている人、他教科からのくら替えをもうろうん

(1) 悉皆調査の結果が出て、教職員定数の在り方に関する調査研究協力者会議（座長・蓮見彦彦東京学芸大学長）は七月二十八日今後の教職員配置の在り方について（中間まとめ）を出した。この中に家庭科が男女必修となることに伴う教育指導に適切に対応できるよう配慮する必要があるという表現が入った。

(2) 「まとめ」を受けて、義務教育諸学校については文部省の予算で行われるので、来年度から始まる第六次改善計画を八月二十一日発表し、来年度の概算要求を提出した。

(3) 高等学校の第五次改善計画についても、「まとめ」を受けて、来年度からの年次計画でいる人、これから免許を取ろうと頑張っている人、家庭科に学んでいる学生など様々な人の集まりとなりました。

とは言え、家庭科をめざす男はまだまだ肩身の狭い存在でもあります。僕達は各地で家庭科の魅力に目覚めた男達に励ましと具体的援助を行なうことと、行政等に働きかけ、男性家庭科教員を増やすための具体的措置を要求して行きたいと考えています。男性が家庭科教員の半数を占める日を夢見て気長にやって行こうと思っていますので、よろしくお願いします。

大阪 南野 忠晴

を作成する。しかし高等学校の方は、文部省の直接の予算ではなく、自治省地方公布税関係となるので、自治省と今後協議をしながら11月を目途に概算要求の策定をする。

「会」からは、学校現場の新课程検討の様子や今後の進行予測などを説明し、11月末では、各学校での検討、決定に間に合わないということも有り得るので、もっと早くに策定して欲しいと要望しました。

また、日常の生活経験や身体や五感を十分に使う体験の乏しくなっている生徒達の現状が、実習などの授業の中で具体的にどんな行為となって出てるのかも説明し、少人数構成の授業が可能になるよう別学習への配慮もお願いしておきました。

この後、乾議員には、「家庭科教員をめざす男の会」の旗揚げと、家庭科がもう少しと免許取得のために通信教育スクーリングを受ける男性教師が年々増えていること、しかし取得のための場が限られているため、通信教育を実施している大学も悲鳴をあげていること等お話をしました。

乾議員は「家庭科男女共修は男女共教というのは、当り前のこと」と共感され、さっそく取り組みたいと男女の家庭科に力を入れてくださるということでした。